



平国小学校入学式

期待も一杯 不安も一杯

十六年度を迎え小学校入学式がありました。津奈木町内各校の入学者は津小は四十七名(二クラス)、赤崎小三名、平国小十一名、津中五十五名(二クラス)でした。

写真の平国小の場合は十一名中男子児童は一名ということで、本人にしてみれば楽しさの中にも不安があり複雑な心境ではないでしょうか？

児童たちは保護者が思案するよりも順応が早く楽しみにしています。新年度を迎えた社会人にも同じことが言えるのではないのでしょうか？

本町にも新採が一名教育委員会へ配属になりました。津小にも新任の先生がいらつしました。頑張って下さい。

一言

今、フラダンスが大人気のようです。子育ても終わり、時間の余裕もできた六十代の女性を中心に、幅広く愛されているといえます。

津奈木町でも、平成十二年度から、生涯学習の一環として、フラダンス教室が開講となりました。

フラダンスは、一曲毎に物語りの歌詞を、指先や手の動きで表現し、腰を動かしながらゆったりと踊る、美しく、楽しい踊りです。年齢に関係なく、普段、着る事もない派手な衣装に身を包み、精一杯のおしゃれをして踊る楽しさが、人気が出る由縁でしょうか。

適度な運動量で汗も十分出るので健康にも良いし、ストレス解消にもなると思います私も踊っています。

生涯学習のフラダンス教室から、インストラクター二名が誕生し教室を開かれていますので、当町もフラ愛好者が増えています。

ちなみに、熊本は東京と並び、フラダンスが全国でも最も盛んな地域の一つです。(フラ愛好者)



子ども美術館(25) (町文化協会 奨励賞作品)

「ねこじやし」 (現平小五年)

平国の秋をみつながら歩いてみると、「ねこじやし」が目に入ったようで、その「ねこじやし」を中心にそえて絵をえがいています。下のかべの色は、明るすぎず、暗すぎず、全体とのバランスも考えながらぬっています。

それに、「かべ」「ねこじやし」「家」の遠近感を上手にあらわしています。

平成16年度津奈木町 町民体育祭種目 日程一覧表

大会名	開催期日
男子ソフトボール大会	5月9日(日)
女子ミニバレーボール大会	〃
野球大会	8月13・14日(金・土)
競舟大会(第三十九回)	8月15日(日)
陸上競技大会(第五十九回)	10月10日(日)

つなぎ文化センターと津奈木町教育委員会の主催で三月六日(土)に、テレビ放映で大反響を呼んだ北海道の北星学園余市高等学校教諭 義家弘介先生の講演会が、「ヤンキー母校に生きる」の演題で開催されました。

一九八八年全日制普通科の高校では初めて、高校中



講師の義家弘介先生

文化講演会 ヤンキー母校に 生きる

退者たちにやりなおいの場として共に未来を切り開いていこうと歩み出した私立高校です。

義家先生も度重なる問題行動の末に、学校からも家庭からも地域からも追われボロボロの心でこの高校にたどり着かれたのです。そして、安達俊子先生との出会いで心を開き「弁護士になりたい」という目標を見つけた、夢に向かって歩いていた大学四年生の秋、再び襲った苦難。バイク事故で瀕死の重体となり、生死を彷徨う中で生きることを諦めかけていた時、北海道から横浜の病院にかけつけた安達先生の「あなたは私の夢だから死なないで」と、何度も何度も心からの語りかけに、生きる勇気を取り



会場風景(つなぎ文化センター)

り戻し、「先生が生きてきた道の続きを歩いていこう」という新たな目標となり、現在母校で教鞭をとられる原点となったのです。

教育は子どもたちに希望を示してやらなければならぬとの思いで、常に真面目から生徒と向き合われる先生。これからの無限の可能性を秘めた生徒たちと夢へ向かつての挑戦が続くことでしょう。

あけぼの大学

受講者募集

平成十五年度の受講者申込み受付が完了しています。

高齢者対象になつていますが関心のあられる方は教委、または老人会地区長にお申込みください。

期日、講師、内容については校区毎によって多少異なります。

多数のお申込みをお待ちしています。

編集後記

一年経つのは早いものです。十六年度もいよいよスタートしました。「今年こそは……」と思っています。心機一転して編集しようと思っていますが、なかなか納得していただける編集にはならないかも知れません。精一杯の能力で一所懸命頑張っています。

教育委員会は四月一日付の人事異動により事務分掌の担当者が変わりましたが、けれども今迄どおりよろしくお願ひします。

尚、「子ども美術館」「人権学習」感想文は十五年度の作品です。

四十六年間の勤めを終え、平成十二年十二月父の急逝を機に三十五年振りに故郷津奈木に帰って来た。水田二十アール、畑十五アールを保有し農作業に追われていた。定年後は好きな絵を描いたり山登りをしたりして余生を楽しもうと思つて帰って来たが、家の周りの田畑を荒れおけくわけにもゆかず、しかたなく農業をするはめになった。百姓には百の仕事があるという、結構忙しい、農作業はきつくり、足腰が痛む。それで気楽にのんびり、楽しくやることにした。早速女房が野菜作りの本を買つて

気丸（木酢にニンニクを入れたものとホワイトリカーに鷹の爪を入れた混合液）を散布する。四季を通じて色々の野菜を栽培するが、出来栄は自画自賛ながら



農作業もまた楽し

坂本 良二（倉谷）

育たないと聞いていたが鹿児島に赴任した親戚の者がわざわざ種を送ってくれたので試みに播いてみた。生育も良く結構大きなものが出来た。本場桜島では大き

町の消防副団長

長浜美根子さん(59) (平国)

町の消防副団長として活躍されている長浜美根子さんをお訪ねしました。

平成十二年に就任されるまでは平国婦人消防分団長として貢献されてきました。この程日本消防協会の要請で全国から選抜された若手の女性消防団の研修会に



お仕事の長浜さん

平国婦人消防分団長の福山二子さんと上京され講演されました。

昼間は男性は仕事に出掛け留守が多いので、いざ火災が発生した場合には婦人消防団がいち早く駆けつけ消火にあたります。

団員の仕事は消火作業ばかりでなく、行方不明者の



全国表彰 (H16.2)

搜索にも駆り出されます。最近では昨年の水俣土石流災害にも出動されました。講演でもその事を語られるとき、あの惨状が甦り思わず涙され、研修生ももら

い泣きされたそうです。「恐くはないですか？」の質問に「恐いけど現場に駆けつけたらそういう事は言っておられませんか。」

さすが二十六年のキャリアがありプロ意識が窺えました。

日頃の彼女は自営業で忙しい日々ですが、朗らかに活躍の場がない事が一番ですが、いざ出動という時は怪我には充分注意されますよう祈念致します。

(篠原記)

短歌

本郷武雄選

肥後狂句

打忘れ

つなぎ短歌会
戻り寒衝きて雪のふくらみし
初水仙を仏に供う
福田八重子

打忘れ
鍋ひっかけて長電話
改札口
誰が活たか花一輪
宰相

水仙の強き香の中をゆく
春一番をもちにうつつ
西川ムキ

打忘れ
電話の相手だったろか
改札口
キップとあなたがとらすとね
達生

嫁ぎ来てふるさと遠く隔たれど
思い出さず半世紀過ぐ
白浜美和子

打忘れ
廻れ右してもどらした
改札口
無人駅では用もなく
寅之助

真向えは吾に圧しくる屋久杉の
裂けたる幹は天を指しいて
西 滋子

打ち忘れ
どこかで逢うたごたる人
改札口
恋人だろか何んぢやろか
万葉

今一度たずねてみたき山の陽よ
木漏れ陽の道 谷川の音
野田 浦子

〔今回の笠〕
○迂闊にも ○ナツメロで
一笠一句を 六月九日(水)迄
津奈木町教育委員会へ

山鹿中学校から転任して来ました。前任校は県北でした。今回県南の津奈木中学校へ来て、景色の美しさに驚きました。山あり、海もあり、たけのこもあり。教科担当は英語です。生徒に英語の楽しさを伝えていきたいと思っています。また、私自身のできることを精一杯やっていきます。よろしくお願ひ致します。



津奈木中教諭 村山 裕美

一昨年は水俣市の水俣第三中学校に勤務しておりましたが、昨年一年間、県庁へ出向しましたので、少し勤が鈍っているかもしれませんが、担当教科は保健体育です。一年間の出向でかなり体に蓄えができましたので、まずは生徒と一緒に体を動かしながら頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。



津奈木中教諭 古田 利也

手をつなぎ 学ぶ楽しさ 生かす喜び 第8回生涯学習発表会



健康ダンス (自主講座)



六方踊り (平国)



民謡四季の会 (町民講座)



リフォーム (町民講座)



創作劇「眼鏡橋物語」(津小6年生)



赤崎太鼓 (赤崎小)

去る、三月三日(水)七日(日)まで、つなぎ文化センターで開催されました。

町民講座の絵画教室、リフォーム教室、自主講座のフォーラム教室、陶芸教室、パッチワーク、陶芸教室、ちぎり絵教室、津奈木押し花の会、ガーデニング教室、若葉流つまみ絵の作品が展示されました。

最終日の七日の午後には二部構成で発表会が開催され、日頃の練習の成果を遺憾無く発揮されていました。

二部では、今年も小学生の発表が生涯学習フェスティバルを盛り上げてくれました。赤崎小の赤崎太鼓「まつりばやし」、「海からのたより」で、児童たちの息の合った抱擁に感動しました。また、津奈木小六年生の創作劇「眼鏡橋物語」は、地域の話題を取り入れた劇で眼鏡橋のできるまでの由来を見事に表現していました。会場からも盛んな拍手がありました。

「浜元二徳さんの講話」を聞いて

津奈木中二年 松田 千恵美 (現津中三年)



会場風景

浜元さんの話を聞いて、公害の恐ろしさや差別や偏見、今の自分たちの生活のあり方などをあらためて考えさせられました。

かつて、漁業の栄えた水俣の海はチツソから流れた有機水銀によって海が汚染され、魚が死んだり、水銀によって汚染された魚を食べた猫や鳥が、おかしい動きをするのがみられるようになりました。

やがて汚染された魚を食べた人間にも手足のまひやめまいなどといった症状がみられ、「奇病」と言われていました。これが水俣病の始まりで、その後多くの人が亡くなったたり、差別や偏見を受けてきました。

浜元さんも水俣病になり、車椅子生活をされてい

また、私たちにできることは環境に配慮した生活をおくり、水俣病について間違った考えを持っていない人、水俣病はこういうものなのだと正しく教えてあげることではないかと思っています。そうすれば、水俣病への理解が深まり、差別や偏見はなくなり、自分の生活を改めて見直し、環境に配慮した生活をする人が増えていくのではないかと思います。

るかたわら、これまで世界各国で水俣病を知ってもらったための活動をされてきたそうです。浜元さんの世界で行ってきた活動や語りべには水俣病をもっと多くの人に知ってもらい、差別や偏見をなくし、二度と公害が起こらないようにとの思いが込められているのだと思いました。



浜元さんの話を聞いて